2020年10月1日
No.98

イルカ通信

隔月1回発行
バックナンバーは無料で
ダウンロードできます
（下記参照）

3年ぶりに確認！！ハシナガイルカの子どもを連れたミナミハンドウイルカ

2020年8月、ハシナガイルカの子どもを連れたミナミハンドウイルカの目撃情報をいただきました。このような行動は、異種間での「養子取り（Adoption）」と呼ばれ、これまでにも、2013年から2017年にかけて毎夏のように同様の事例が観察されており、今回は、2017年以来3年ぶりの観察事例となります。

今回ご提供いただいた資料を確認すると、8月5日にハシナガイルカの子どもを連れていたのは、2017年にも「養子取り」行動が観察された個体（識別番号#266、愛称：アイ）であることがわかりました。また、その5日後には別の個体（識別番号#205、愛称：ライトM）がハシナガイルカの子どもを連れていたこともわかりました。この2個体の性別はどちらもメス。過去に「養子取り」行動が確認された個体についても、すべて共通してメスであることがわかっています（表1）。

これまでの観察記録からは、同伴していたミナミハンドウイルカによる授乳らしき行動も確認されています。しかしながら、ハシナガイルカの子どもがきちんと成育した事例は確認できておらず、最長でも2か月弱の短い観察記録となっています。一方で、ハンドウイルカがカズハゴンドウの子どもを3年半にわたり育てたという事例が海外で報告されています[1]。そのため、ハシナガイルカの子どもが成育する可能性はゼロではないかもしれません。

「養子取り」が行われる背景として、親とはぐれた子どもの面倒を見ているのか、子どもが間違ってついてくるのか、それとも誘拐してくるのかはわかりません。しかしながら、このような行動が何度も小笠原海域で確認されていることから、一部のミナミハンドウイルカの間でブームのようになっているのかもしれません。今後も「養子取り」を目撃された方がいらっしゃいましたら、ぜひＯＷＡまでご連絡をお願いいたします。

[引用] [1] Carzon, P., Delfour, F., Dudzinski, K., Oremus, M., & Clua, É. (2019). Cross-genus adoptions in delphinids: One example with taxonomic discussion. Ethology, 125(9), 669-676.

写真提供：佐々木氏（2020年8月）

#266とハシナガイルカの子ども

表1. これまでに養子取りを確認した個体

識別番号	愛称	性別
#19	スポッティー	メス
#41	オチョボ	メス
#89	キップ	メス
#146	大黒さん	メス
#173	ミカワ	メス
#205	ライトM	メス
#227	ゆきえちゃん	メス
#266	アイ	メス
#296	ハハジマ	メス

ドルフィンウォッチング・スイム自主ルールの一部改定のお知らせ

小笠原の海で暮らすイルカたちの生活に負荷がかからないように、そして、観察者の安全と快適性を確保するため、イルカを観察する際の自主ルールが制定されています。その内容が次のように改定されました。ツアーに参加される皆様におかれましても、ご理解ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

1

ひとつの群れにアプローチできる船は、船の大小を問わず4隻までとする。
（ウォッチングのみの場合も含まれる）

2

ひとつの群れに対する水中へのエントリー回数を、１隻につき５回以下とする。
※ただし、必ずしも５回ＯＫというものではなく、その時のイルカの状況や他船を配慮すること。

（改定：小笠原村観光協会 2020年）

一般社団法人　小笠原ホエールウォッチング協会　URL　http://www.owa1989.com/
〒100-2101　東京都小笠原村父島字東町　TEL　04998-2-3215　e-mail　info@owa1989.com